

イチ押し

「鳥の来る道」=脇田和、油彩・キャンバス、
181.8センチ×227.3センチ、1986年



碓氷峠の道をモチーフにした作品。「これまで歩んできた絵の道。ゆっくり蛇行した道にはいつも鳥たちがいた。終局のない絵の道に鳥たちの誘導を期待した」と脇田。一見さりげなく描いたように見えるが、グレーが交ざった軟らかな青っぽい画面は、何回も重ねた色がしっかりと収まり、複雑なタッチの色使いで不思議な魅力がある。



【わきた・かず】
1908(明治41)年、東京都港区生まれ。25年、ベルリン国立美術学校入学。32年、太平洋画会初賞。59〜70年、東京入選。36年、猪熊弦一郎、小磯良平らと新制作派協会(現・新制作協会)設立。55年、日本国際美術展で「あそい」が最優秀賞受賞。56年、第1回グッゲンハイム国際美術賞を受賞。05年死去。



館長 脇田智さん
父の作品は、ドイッで学んだ絵の基本がしっかりとあって遊び心が生かれています。アトリエの中でいろいろな野鳥を飼って、四六時中絵を描いて楽しんでいました。野鳥を飼うようになってから描いた「あそい」(1965年)は、

描いた作品に 手を加える

それまでとは異なっていた。亡くなった後は修る抽象的な作品で、常に完成していないという意識があった。それをみたとき、私は鳥が動いたのを見て、驚いたのを覚えていた。父は、いったん描いた作品に手を加えることを苦に



カフェ

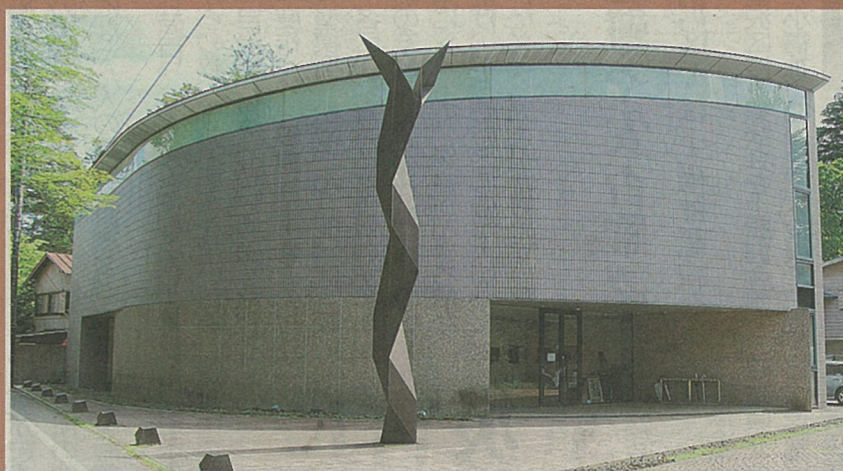
かわいらしい「おだんごぱん」
館内と中庭に4テーブルずつ。7月29日まで行われていた企画展の記念メニューで、ブルガリアから輸入したバラジャムを使った「ロシア」がある。
「オートミールクッキー」(350円)も人気。ドリンクとクッキー3個がセットになったお得な入場券(1500円)もある。

ショップ

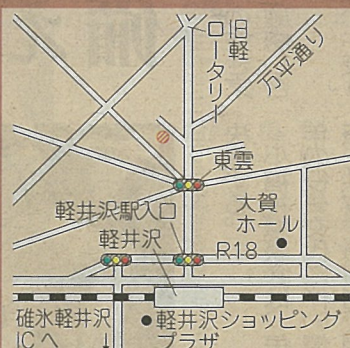


オリジナル商品が豊富。カラフルなスケッチブック(540円)や画版(1580円)、シンプルなデザインのトートバッグ(1080円)が人気。お勧めは脇田が挿絵を描いた単行本「君たちはどう生きるか」(1512円)や絵本「おだんごぱん」(1296円)。脇田の作品集やポストカード(約80種、1300円)もある。

脇田美術館



所在地	北佐久郡軽井沢町軽井沢 1570-4 (☎0267・42・2639)
開館時間	午前10時～午後5時
休館日	11月中旬～4月中旬
入館料	一般1000円、大学・高校生600円、中学生以下500円
駐車場	10台



軽井沢駅近くにある脇田美術館は、洋画家・脇田和(1908～2005年)の作品を展示している。脇田が自分のアトリエ兼山荘の敷地に1991年に開設し、初代館長を務めた。現在の館長は長男の智さん(79)。脇田が設計した2階建て2棟からなり、油彩約300点、水彩・素描300余点、版画約100点、立体作品などを収蔵。約80点を常設展示している。

(清水いづみ)

「葉むら」=脇田和、油彩・キャンバス、76センチ×66センチ、1988年



「夜の鳥」=脇田和、油彩・キャンバス、145.5センチ×112.1センチ、1999年



「南国の鳥」=脇田和、油彩・キャンバス、58.1センチ×63センチ、1991年



展示室

70年代～晩年の作品展示

「世界展」を開催中

展示スペースはA棟の1、2階とB棟の2階。4月中旬から11月中旬まで開館しており、今は「鳥を放つ」協田和の世界展を開催中。1970年代から晩年の作品を中心に、油彩、版画、ドローイングなど約80点が並んでいる。2棟をつなぐ2階の回廊には、脇田が収集したオブジェも展示している。美術館の入り口と中庭にある鉄製ミニチュアは、次男で画家・彫刻家の愛二郎(1942～2006年)の作品だ。脇田の作品は、鳥や子供が描かれた童話的で温かな印象を受ける作風が特徴。40代で肋膜炎を患い2年ほど養生したときからアトリエの中でいろいろな野

鳥を飼い、鳥をモチーフにした作品を多く制作した。脇田はクラシック音楽やジャズを聴きながら制作していたとい

い、館内でコンサートやパーティーも開く。9月24日には柳川守ピアニストが出演する。脇田の父が金沢市出身であることから、2015年に石川県立美術館に油彩など317点を寄贈。16年から同館と連携して企画展も開いている。美術館に隣接するアトリエ兼山荘は、1970年に建てられた木造。コンクリート構造。日本のモダニズム建築を代表する建物の一つで、毎年秋に一般公開する。今年は10月6日に「建築ワークショップ」、20日に「近代建築サイン講義」を開く。

「画房夢想曲」=脇田和、油彩・キャンバス、162.1センチ×130.3センチ、2000年

